

アフターコロナを見据え、県内観光業者に GI山梨認定酒をPR

山梨県酒造協同組合

山梨県酒造協同組合（北原兵庫理事長、組合員12社）は、10月1日常磐ホテルで地理的表示（GI）「山梨」の認定を受けた8蔵33銘柄の試飲・展示会を開催した。

組合では、これまでも卸や小売の関係者を対象にした試飲会等は定期的で開催してきたが、県産日本酒に対する地理的表示「GI山梨」の認知度向上や需要喚起を高めようと、初めてホテルや旅行業者等の観光関係業者も含めたイベントを開催、約80名が参加した。

「GI山梨」の日本酒は、仕込み水の水系を限定条件するほど水にこだわっている。試飲・展示会では、この水と高い技術力を活かした酒造りについて説明があり、透明感となめらかな口当たり、うま



蔵元と情報交換する参加者

みとコクなどについて各蔵がPRした。

その後、参加者は蔵ごとのブースに設置されている足踏み式試飲器から認定酒を注ぎ、指定された席で味わった。イベントは2部制にし、人数制限を行い新型コロナウイルス感染予防対策にも配慮した。

参加したホテル関係者からは、「まん延防止等重点措置によるレストランの休業や時短営業、県内全域で酒類の提供が停止されたことでお客様のマインドが冷え切っている。年末に向け、ワクチン効果等でおお客様の予約状況も増えてきたので、水の良さを全面に打ち出したGI山梨の魅力をお客様に提案をしていきたい。」と語った。また、北原理事長は「長期化するコロナ禍において今年4月に国税庁の指定を受けたGI山梨は、産地や品質を保証し国際的な信用と競争力を高めることができることから、アフターコロナを見据え観光関連業者とも連携を図り、山梨県を訪れる多くの観光客への周知、消費拡大に繋げていきたい。」と語った。

